

ピアノを弾こう! 教室訪問 PART 2 第10回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

「変えてはいけない指導」と、 「変えなければいけない指導」

今月は、愛知・名古屋市でピアノ教室を主宰する大西裕子先生のレッスンを取材した。この日の生徒は、仲よし三姉妹の長女の青山胡桃ちゃん(小4)。普段のレッスンは別日で行っているが、この日は妹二人も一緒に教室に来てくれた。

今月のピアノ教室 愛知・名古屋市
大西ピアノ・エレクトーン教室



住宅街の一角にある自宅教室には、グランドピアノとエレクトーンが各1台。生徒たちは隣の和室で、宿題をしたり漫画を読んだりしながら自分の順番がくるのを待っている。MDP-30音源データを活用して小協奏曲ふうに演奏したり、豊かな音楽体験を提供している。最寄り駅は、名古屋市地下鉄名城線「瑞穂運動場東駅」より徒歩約15分。連絡先は、大西☎080-3634-5336まで。



ヤマハグレードと
コンサートグレード
にも挑戦!

さあ、レッスンしましょっ!

今月の先生と生徒

大西裕子先生
おにし・ゆうこ ●幼少よりヤマハ音楽教室で学ぶ。第一楽器植田店所属。ピアノ科講師を経て、自宅教室を主宰。「NEWピアノスタディ」(1~7)改訂時に指導者委員として参加。子どもから大人まで、幅広い世代の指導に携わっている。

青山胡桃ちゃん(小4)
「ピアノのレッスンは脳の発達に良い」と知ったお母さんの勧めで、幼稚園の年中組から始めて6年目。学校ではバスケットボール部に所属。お菓子作りや手芸も得意。お稽古事は、三姉妹ともピアノ以外に習字を習っている。



ピアノの前を離れて、ワークブックで「生きるよろこび」の曲のつくり(3部形式)を学習。曲の「完成像」を聴いてイメージを膨らませる。

大西裕子先生のレッスン流儀 個々の生徒に合わせた 「年間の指導計画」を立てる



朝の登校前に、弱音にしたリヘッドホンをつけてピアノを弾くのが日課。三姉妹で「支度ができた順」に、練習している。



三姉妹でピアノを習っているよ

「生きるよろこび」は8分の6拍子。リズムの取り方の説明後、大西先生の模範演奏に合わせて指揮棒をふる胡桃ちゃん。「リズムが揺れる感じ、わかる?」

ワークブック・カデンツ「幸せなら手をたたこう」は、姉妹で連弾もできた。



ヤマハグレードとヤマハピアノコンサートグレードの両方に挑戦している頑張り屋の三姉妹。「性格同様、音もそれぞれ違います」(大西先生)。長女の胡桃ちゃんは明るくクリアな音、次女の菜穂(なすな)ちゃん(写真中央・小3)は音が柔らかい。そして末っ子の杏鈴(あんず)ちゃん(写真右・小1)は、思い切りが良い音を奏でる。

*ヤマハグレード…ヤマハ音楽能力検定。*ヤマハピアノコンサートグレード…演奏表現力を評価するコンサート形式のグレード試験。課題曲は「ピアノスタディ」に多数掲載。

子どもたちの音楽人生を左右する教師の役割

「学生時代は幼稚園の先生になりたかった」と話す大西先生の教室は、小学生までの生徒が6割を超える。「NEWピアノスタディ5」に入った胡桃ちゃんのこの日のレッスン曲は、「生きるよろこび」。

「明るく前向きな気持ちで弾こうね。この曲を書いたネーゲリは、1773年生まれのスイスの作曲家だね……」と、ワークブックで確認

ながら、やさしく声をかけていく。「『NEWピアノスタディ』は選曲の良さに加え、イラストで曲のイメージ、付属CDで完成像がわかるので、生き生きとした演奏につながるころが魅力です」

大西先生が考えるピアノ教師の役割は、生徒たちに楽しみながら音楽への理解を深めさせ、演奏力を上げることと、生徒の音楽人生をより豊かにすること。長年の教師生活の中で、「変えてはいけない指導と、変えていかなくてはいいな

い指導があるように思います」と話す。

前者は、「生徒の音楽性を否定しない」こと。上達度も理解度も違うそれぞれの生徒に合わせた指導を大事にしている。後者の「変えていかなくてはいいな」のは、指導者の意識だ。子どもを取り巻く環境の変化、習い事の多様化に応じて、より良いレッスン展開を考え、柔軟に対応していくべきと感じているようだ。そして、個々の生徒の「年間の指導計画」を立てる

ことも重視している。その日の指導目標だけでなく、3年後、10年後をイメージして目標を設定した計画だ。生徒の実力とモチベーションアップに役立つとして、ヤマハグレード取得やヤマハピアノコンサートグレード(*)への挑戦も勧める。

「自分のひと言ひと言が子どもたちの音楽人生を左右すると思うと、責任を感じます。音楽と長くつきあい、知識を深められるような教え方ができればと、日々自問自答している。